

WHO ファクトシート

妊産婦死亡率

Maternal mortality

2016年11月

重要な事実

- ・毎日約 830 人の女性が、妊娠と出産に伴う予防可能な原因で死亡している。
- ・妊産婦死亡の 99%は、発展途上国で生じている。
- ・妊産婦死亡率は、地方及び貧困地域で住む女性の間で、より高い。
- ・若い青少年期の女性は、成熟した女性よりも、妊娠に伴う合併症や死亡に関して、より高いリスクに直面している。
- ・出産前、出産中、出産後に熟練したケアを受ければ、母親と新生児の命を救うことが出来る。
- ・1990 年から 2015 年の間に、世界の妊産婦死亡率は約 44%低下した。
- ・持続可能な開発目標の一環として、2016 年から 2030 年の間に世界の妊産婦死亡率を生児出生件数 10 万に対し 70 未満に低下させることが目標である。

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Maternal mortality

ファクトシート原文は [こちら](#)